



2024年 5月 7日  
第168号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## 横地申 第24号 「駅業務執行体制の再構築」(駅輸送業務) に関する申し入れ 団体交渉④ 横浜駅①

1. 異常時に状況の把握が出来なくなり、対応が後手に回っているため、対策を構築すること。  
【会社回答】状況に応じて対応することとなる。

組合	会社
施策実施以降、東海道線ホームの体制が一律できていない。A番か5番が行うことが好ましい。	設備に関わることなので、簡単にはできない。当務とのコミュニケーションを図って実務に支障がないようにしてほしい。
その日ごとの当務の技量、東海道に関しては東海道の担当が行い、当務は集約する役割なのが筋ではないか。	体制変更後に連絡体制で一番使っているのはIP無線であると思う。指揮命令系統としては副長の司令下に入る。
抑止手配などの指揮命令系統が曖昧になり、抑止手配をせず線路内に立ち上がった事象も発生させてしまっている。	昨年変わって一年経っていないが、現場で発生しているものは意見を一致させている。
体制変更以降、現場内でデスクの配置変更などは可能なのか。現行では指令とのやり取りがしづらい。A番・5番が常に監視しやすい体制を整備していくべき。	箇所での設置や変更については、まずは箇所内で議論してほしい。
なぜ、当初の段階で気が付かなかったのか。	通信設備に関しては予算が関係してくる。横浜駅は当初からカメラを配備していた。
横浜駅に関しては現状の対応で可能という認識なのか。	事象が発生すればそこに情報を取りに行く。同じところにあると逆に聞き取りづらいのではないか。
レイアウト変更に関して、職場でも出来る事もある。例えば車椅子ガードマンの待機スペースを改良するなど。	いろいろと声を出し合いながら、より良いものをつくり出していく。

2. 列停や急病人対応の駆け付けに時間を要している。会社としての認識を示すこと。  
【会社回答】引き続き箇所総体で行っていく考えである。

組合	会社
内勤からの駆け付けでも最低3分はかかる。駆け付けの文化があるが、経験のない社員が扱うことで、逆に時間がかかっている現状がある。	<u>重要なのは安全確保。それにかかる時間に関しては、問題にする意識はない。</u>
そこは一致できるがサービス面に关わること。お客さまの声、指令からのあおり、改札も駆け付けるだけの体制が出来ない現状。常にホームにいる時よりも、再開に時間を要している。人がいないのが現実、教育が出来ているか？	事実はある。駆け付けの文化、応援体制いつでもできているのは認識している。 <u>まずは安全の確保が最重要。</u> 経験を重ねて不安を解消していくよう努めていく。
対応しなければならぬ事象、再開まで時間が延びている。	時間が延びているデータは持ち合わせていない。人がいなくなったことで、時間がかかっている認識はある。
改札からの駆け付け、利用者のストレス、それが今このような形で出てきているのではないか。支社も現場と一体になって対応していくべき。	ある意味、駅によっては新人でもオールマイティーに行わなければならないところもある。そこで差異が出るのは仕方が無いと認識している。
以前は若手社員も輸送業務をやっていたが、ここ最近はやらなくなってきている。	色々な方向性がある。しかし、 <u>列停が復位できないでは困るが・・・</u>



その⑤へ続く